

第8章

地域別のまちづくり構想

-
- 8-1 地域区分の設定
 - 8-2 東部地域のまちづくり構想
 - 8-3 英比地域のまちづくり構想
 - 8-4 草木地域のまちづくり構想
 - 8-5 南部地域のまちづくり構想
-

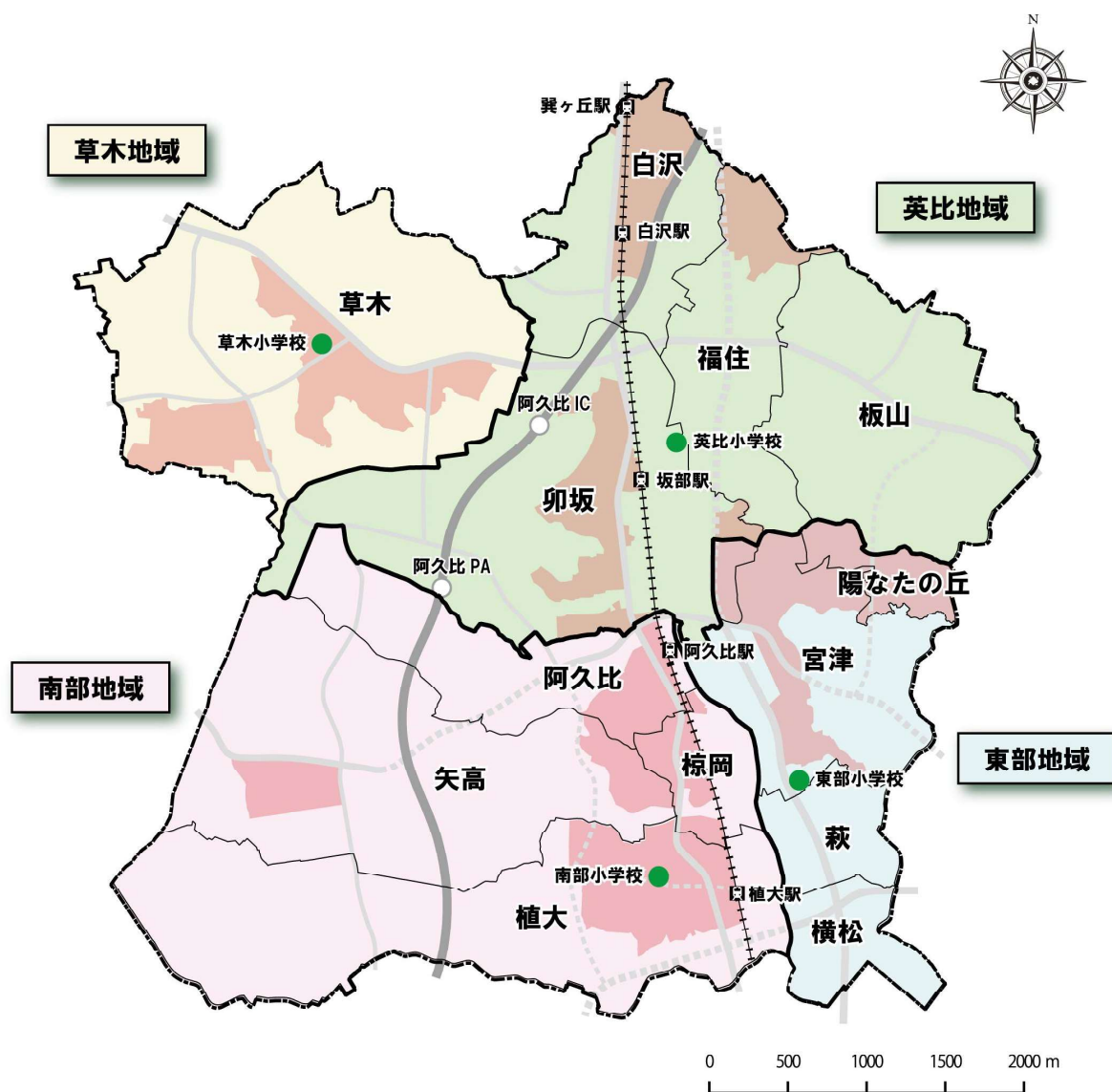
第8章 地域別のまちづくり構想

8-1 地域区分の設定

地域別構想の地域区分は、小学校区による4つの地域を設定します。

- 東部地域：町の南東部に位置する大字横松、萩、宮津、陽なたの丘及び卯坂の一部
- 英比地域：町の北東部に位置する大字板山、福住、白沢及び卯坂の一部
- 草木地域：町の北西部に位置する大字草木
- 南部地域：町の南部に位置する大字阿久比、棕岡、矢高及び植大

<地域区分図>



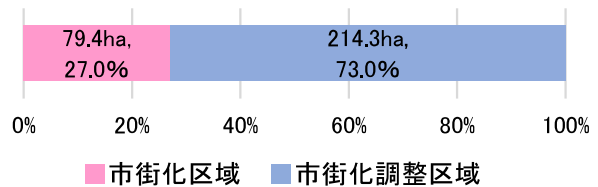
8-2 東部地域のまちづくり構想

(1) 東部地域の現況・特性

① 地域の概況

- ・本地域は、南東部に位置し、半田市に隣接しています。
- ・本地域の面積は約 294ha で、そのうち市街化区域が 27.0% (79.4ha) を占めています。
- ・本地域の西側には、阿久比川と英比川が南北に流れています。

<区域区分の状況(平成 28 年度)>

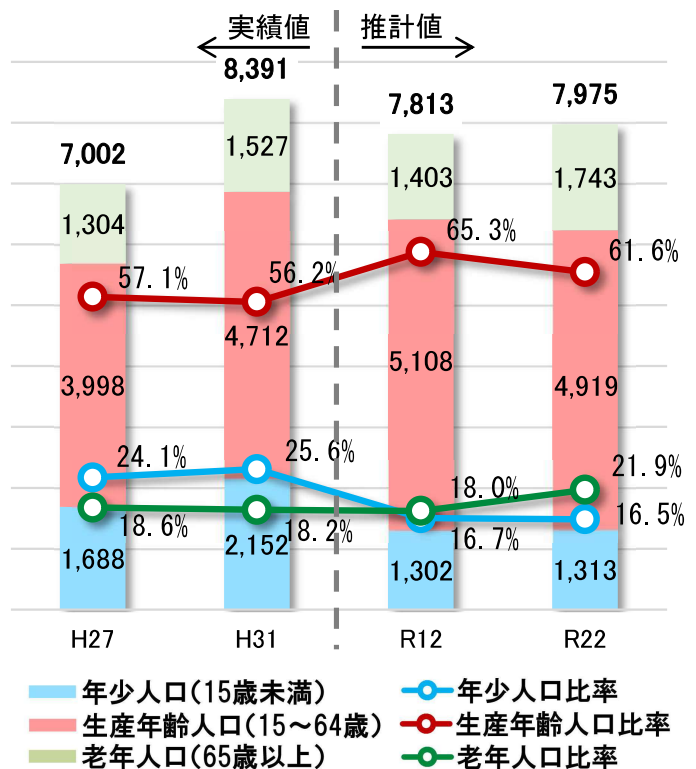


② 人口動向

- ・本地域の平成 27 年 (2015 年) の人口は 7,002 人となっており、町全体の約 25%に該当します。
- ・令和 22 年 (2040 年) までの人口推移を見ると、今後も人口が増加する見込みです。
- ・平成 27 年 (2015 年) の年少人口比率は 24.1%、生産年齢人口比率は 57.1%、老年人口比率は 18.6%であり、年齢構成が町内で最も若い地域となっています。

※平成 27 年、令和元年は実績値を採用
 ※令和 12 年、22 年は、平成 27 年度の国勢調査を基にした推計値を採用 (国立社会保障・人口問題研究所)

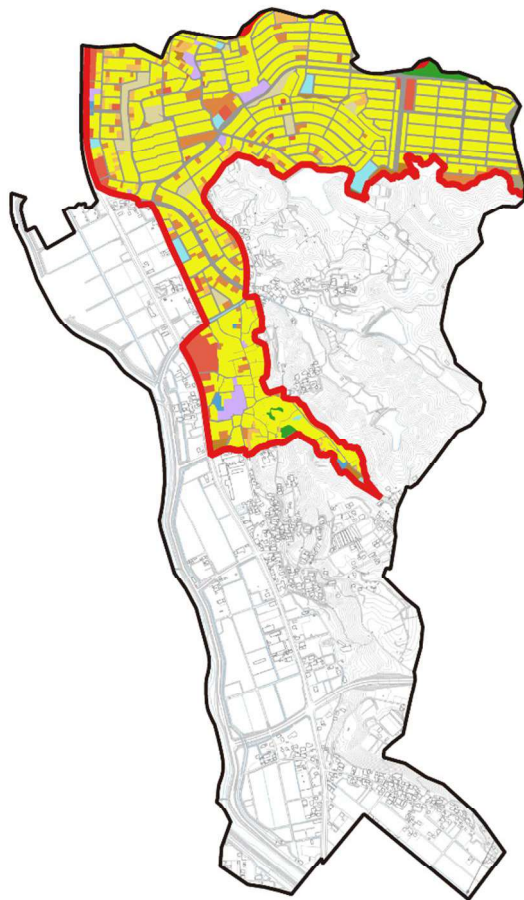
<人口・世帯数の推移>



③ 土地利用の状況

- ・地域北部の市街化区域内では、卯坂・宮津特定・宮津板山の3地区で土地区画整理事業が実施され、良好な住宅地が広がっています。
- ・地域内には昭和期に建設された宮津団地や宮津山田地区が立地しており、住宅団地の老朽化や居住者の高齢化がみられています。
- ・市街化区域内の土地利用は、住宅用地が約 57%と大部分を占めています。
- ・宮津地区では、都市計画道路の整備状況により産業系市街地の開発を検討しています。

<市街化区域内の土地利用現況(平成 30 年度)>



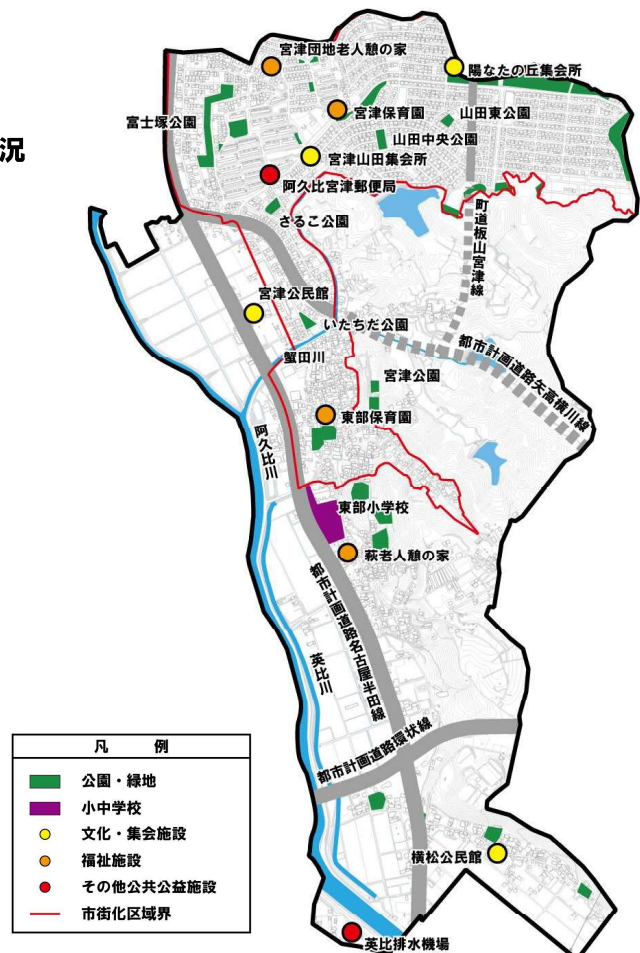
区 分			凡例	市街化区域	
				面積	割合
自然的 土地利用	農地	田		0.00 ha	0.0%
		畑		1.70 ha	2.1%
	山林			1.87 ha	2.4%
	水面			1.26 ha	1.6%
	その他の自然地			1.05 ha	1.3%
都市的 土地利用	住宅用地			45.51 ha	57.3%
	商業用地			1.98 ha	2.5%
	工業用地			0.29 ha	0.4%
	公的・公益用地			1.48 ha	1.9%
	道路用地・ 交通施設用地			17.94 ha	22.6%
	公共空地等			6.27 ha	7.9%
総 計				79.35 ha	100.0%

※「公共空地等」には、公共空地、その他の公的施設用地、その他の空地、低未利用地が含まれる

<都市施設・都市機能の状況図>

④ 都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況

- 本地域では、都市計画道路が3路線（名古屋半田線、環状線、矢高横川線）指定されており、名古屋半田線、矢高横川線の一部が未整備となっています。
- 都市公園は6カ所（街区公園）1.62haが整備されており、一人あたりの都市公園面積は1.9㎡/人で、町平均（2.3㎡/人）より少ない状況となっています。
- 本地域には、東部小学校、宮津公民館のほか、集会所、保育園、老人憩の家、郵便局などの公共公益施設が立地しています。



凡 例
公園・緑地
小中学校
文化・集会施設
福祉施設
その他公共公益施設
市街化区域界

⑤自然環境・地域資源

- ・阿久比川及び英比川沿いに良好な田園風景が広がっており、丘陵地には森林やため池が分布し、動植物の良好な生息地を形成しています。
- ・地域の歴史的資源として、知多半島では唯一の前方後円墳である二子塚古墳（町指定文化財）があります。また、町指定有形民俗文化財である山車が宮津地区、萩地区、横松地区にあり、毎年、各地区の神社で春祭りが行われ、山車の曳き回しなどが行われています。

⑥防災

- ・東部の丘陵地に、砂防指定地、急傾斜地崩壊危険箇所、山腹崩壊危険地区が指定されています。
- ・「洪水ハザードマップ」において、阿久比川・十ヶ川流域周辺が浸水想定区域に指定されています。また、「ため池ハザードマップ」において、屋郷池、大池脇池、山田池の下流域が被害想定区域に指定されています。
- ・地域防災計画において、東部小学校、宮津公民館、宮津保育園、陽なたの丘集会所が避難所に指定されているほか、いたちだ公園などの街区公園が避難場所に指定されています。

（２）東部地域の課題

【人口動向】

- 他地域に比べ、生産年齢人口及び年少人口の占める割合が高いことから、今後も将来にわたり、子育て世帯をはじめとする若い世代が暮らしやすい環境づくりが求められます。

【土地利用動向】

- 既存住宅地の良好な住環境の維持・保全や、住宅団地の老朽化対策や高齢居住者が安全安心に暮らすことができる環境整備が求められます。
- 宮津地区において、都市計画道路の整備状況と合わせた産業系市街地の開発促進が求められます。

【都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況】

- 都市計画道路の未整備区間の早期整備や、地域ニーズを踏まえた身近な公園・緑地の確保、公共公益施設の適正な維持・管理が求められます。

【自然環境・地域資源】

- 阿久比川や英比川の河川景観を活かしたまちづくりや、山車などの地域の特色ある歴史・文化の保全・継承が求められます。

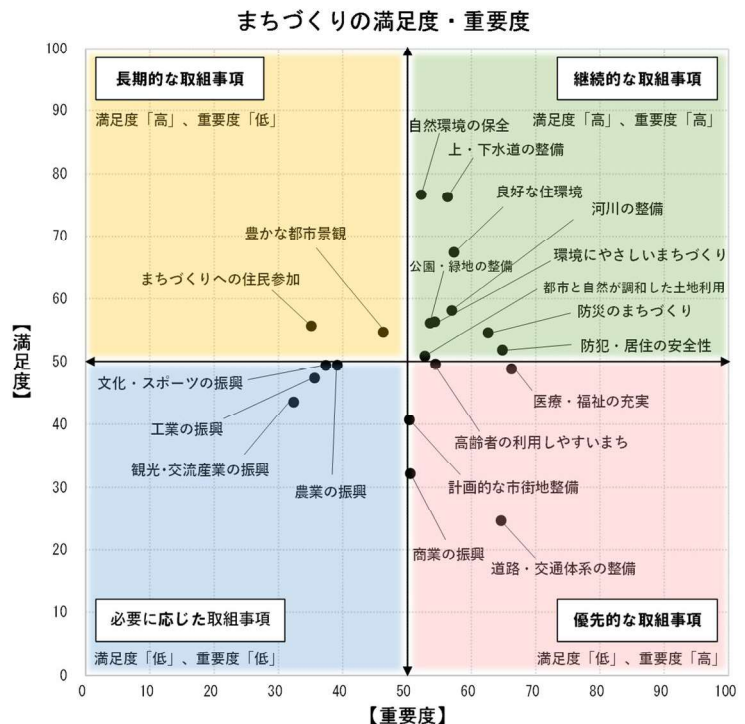
【防災】

- 河川やため池、丘陵地の周辺において、自然災害による被害を軽減するための防災対策の推進が求められます。
- 避難所や避難場所に指定されている施設の適切な維持・管理が求められます。

(3) 東部地域の住民意向

① まちづくりの満足度・重要度

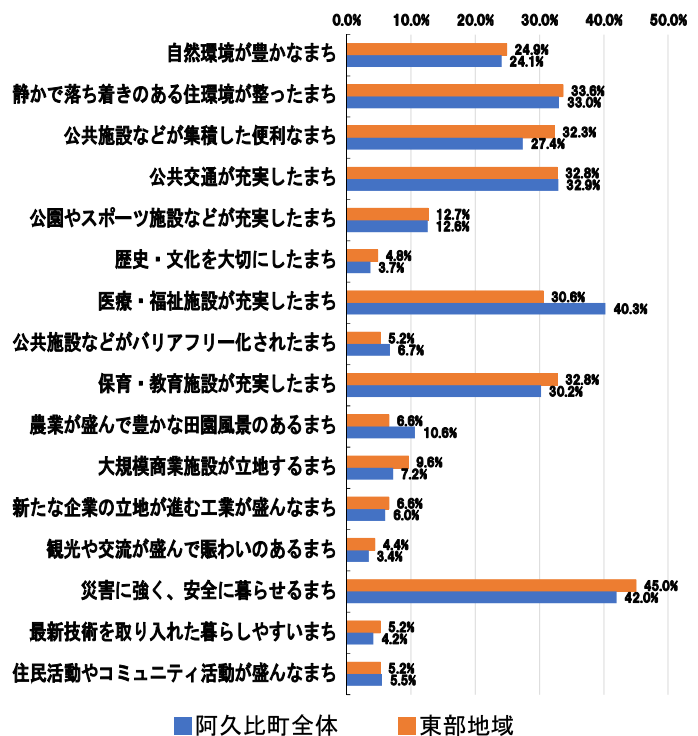
- 満足度が低く重要度が高い取組事項として、「道路・交通体系の整備」があげられており、道路・交通環境の充実が求められています。



※「満足度」と「重要度」の回答を点数化し、平均得点を偏差値として示したものの。

② まちの将来像

- まちの将来像として、「災害に強く、安全に暮らせるまち」が高い割合となっており、河川の浸水対策や丘陵地の急傾斜地崩壊対策などが求められています。
- 町全体と比較すると、「公共施設などが集積した便利なまち」や「保育・教育施設が充実したまち」の割合が高く、公共公益施設の集積や充実が求められています。



(4) 東部地域のまちづくりの基本方針

① 子育て世帯や高齢者が安心して暮らせる地域づくり

宮津地区や陽なたの丘地区の既存住宅地や住宅団地において、良好な居住環境の維持・保全に努めるとともに、子育て世帯や高齢者などが安心して暮らし続けることができる生活環境の形成を図ります。

② 交通環境整備と連動し、新たな産業を創出する地域づくり

都市計画道路矢高横川線などの早期整備を促進するとともに、新たな工業用地の整備を促進します。

③ 災害に強く、安全な地域づくり

阿久比川・英比川や丘陵地の急斜面に近接する集落地の防災性を向上し、安全な地域環境の形成を図ります。

(5) 東部地域のまちづくりの整備方針

1) 土地利用・市街地整備に関する方針

① 住居系土地利用

- ・宮津団地や宮津山田地区、陽なたの丘地区では、低層住宅を中心とした良好な居住環境の維持・保全を図ります。
- ・宮津地区、萩地区及び横松地区の既存集落地では、後背の自然豊かな丘陵地と調和した良好な居住環境の保全を図ります。
- ・小廻間地区及び五反田上地区における暫定用途地域については、居住環境の向上を図るため、地域住民などの意向を調整のうえ、今後の土地利用のあり方について検討を進めます。
- ・地域住民の生活利便性を考慮した土地利用を図るため、都市計画道路名古屋半田線の沿道を中心に市街地拡大候補地を位置づけ、実現化に向けた調査・検討を進めます。

② 商業系土地利用

- ・都市計画道路名古屋半田線の沿道では、周辺の営農環境と調和しつつ、地域の生活利便性向上に資する土地利用の誘導を検討します。

③ 工業系土地利用

- ・宮津地区東部では、新たな産業機能の導入を目指し、都市計画道路矢高横川線沿道を市街地拡大候補地に位置づけ、都市計画道路の整備状況と合わせた工業団地の整備を検討します。

④ 農業系土地利用

- ・市街地調整区域の農地では、土地改良事業などにより営農環境の整備・保全を図るとともに、無秩序な宅地化を抑制し、優良農地の保全を図ります。

2)道路・交通の整備方針

- ・地域の生活交通の利便性向上を図るため、南北に縦断する都市計画道路名古屋半田線と東西に横断する都市計画道路矢高横川線及び環状線の整備を促進するとともに、都市計画道路知多西尾線と都市計画道路矢高横川線を結ぶ町道板山宮津線の整備検討を進めます。
- ・地域の高齢者など、交通弱者の日常生活を支える移動手段を確保するため、地域住民のニーズに配慮した循環バスの維持・充実を検討します。

3)公園・緑地の整備方針

- ・既設の公園について、公園施設長寿命化計画に基づき、遊具・施設などの適正な維持・管理を図ります。
- ・横松地区や萩地区など、都市公園の整備が不足する地域において、地域住民のニーズに配慮した身近な公園・緑地の確保を検討します。

4)河川・下水道の整備方針

- ・阿久比川の河川敷を活かしたサイクリングロードの整備を促進します。
- ・阿久比川などの河川は、近年の豪雨災害を踏まえ、整備計画に基づき必要な対策を図ります。
- ・市街化調整区域に広がる農地において、農作物のたん水被害防止を未然に防ぐため、たん水防除事業を促進します。
- ・市街化区域内の下水道施設の計画的な維持・更新を図るとともに、市街化調整区域において単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図ります。

5)自然環境・景観の形成方針

- ・東部に広がる丘陵地について、自然環境の保全に努めます。
- ・再生可能エネルギー発電施設などの開発は、適正な規制と誘導により抑制し、地域の自然環境や居住環境に配慮した景観の形成に努めます。
- ・ホテルの主要な生息地となっている阿久比川沿いの優良農地は、地域住民との協働のもと継続的な保全を図ります。

6)大規模自然災害に備えた安全安心な生活環境の整備方針

- ・阿久比川周辺の浸水想定区域において、防火対策の強化や防災措置の指導、農地が有する遊水・保水機能の維持・確保に向けた総合的な対策を図ります。
- ・屋郷池、大池脇池などのため池の被害想定区域において、水害の拡大防止に向けた周知を図ります。
- ・急傾斜地に近接している宮津地区、萩地区及び横松地区の既存集落地は、危険度に応じて急傾斜地崩壊対策事業を促進します。
- ・木造住宅が密集する宮津地区などの既存集落地は、狭あい道路の改善や空家などの解消によるオープンスペースの確保に努めるとともに、避難場所となる公園の防災機能の強化を図ります。
- ・住民の防災意識の高揚を図り、地域主体の防災活動の活性化を促進します。

<東部地域のまちづくり方針図>



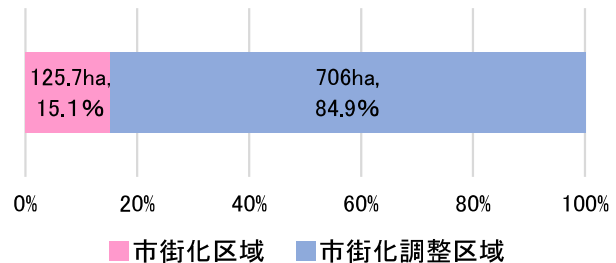
8-3 英比地域のまちづくり構想

(1) 英比地域の現況・特性

① 地域の概況

- ・本地域は、北東部に位置し、半田市と東浦町、知多市、常滑市に隣接しています。
- ・本地域の面積は約 832ha で、そのうち市街化区域が 15.1% (125.7ha) を占めています。
- ・本地域には、広域的な交通拠点として、名鉄河和線巽ヶ丘駅や知多半島道路阿久比インターチェンジが位置しています。

<区域区分の状況(平成 28 年度)>

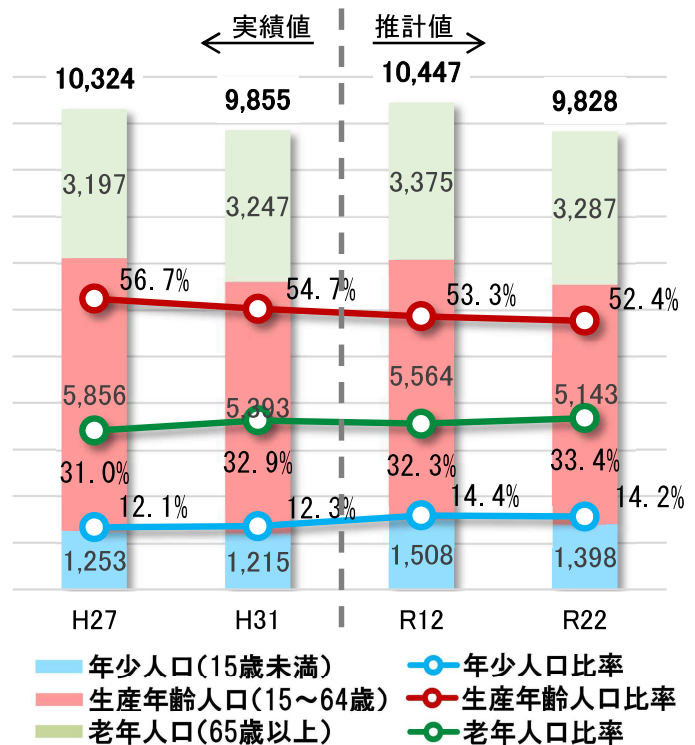


② 人口動向

- ・本地域の平成 27 年 (2015 年) の人口は 10,324 人となっており、町全体の約 37% に該当します。
- ・令和 22 年 (2040 年) までの人口推移を見ると、今後は人口が減少する見込みです。
- ・平成 27 年 (2015 年) の年少人口比率は 12.1%、生産年齢人口比率は 56.7%、老年人口比率は 31.0% となっており、町内で最も高齢化が進んだ地域となっています。

※平成 27 年、令和元年は実績値を採用
 ※令和 12 年、22 年は、平成 27 年度の国勢調査を基にした推計値を採用 (国立社会保障・人口問題研究所)

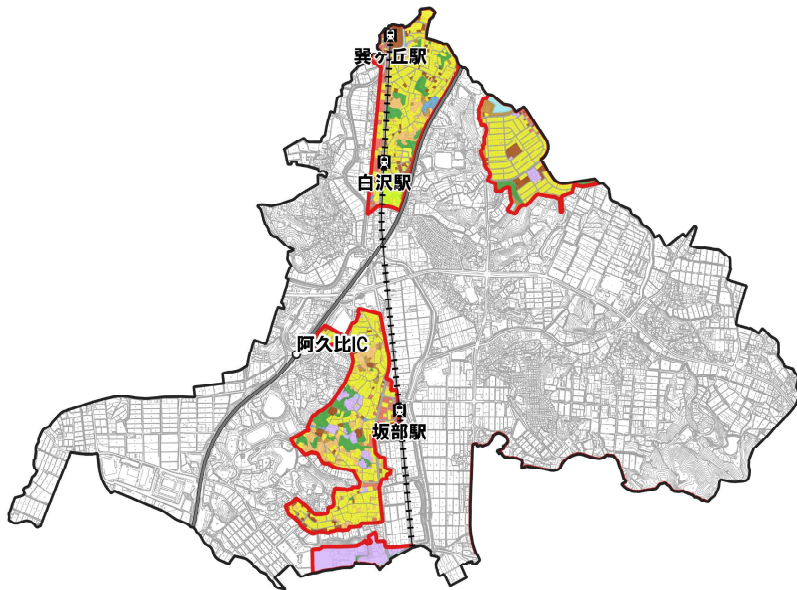
<人口・世帯数の推移>



③ 土地利用の状況

- ・本地域では、坂部駅西・卯坂南部の2地区で土地区画整理事業が実施されたほか、高根台などで団地開発が行われ、良好な住宅地が広がっています。
- ・市街化区域内の土地利用は、住宅用地が約 45% を占めています。
- ・地域を南北に縦断する都市計画道路知多東部線の沿道では、商業用地の集積がみられます。
- ・市街化調整区域には、既存集落地や白沢台、福住園高台などの住宅地が立地しているほか、地域西部に中部工業団地が位置しています。

<市街化区域内の土地利用現況(平成30年度)>



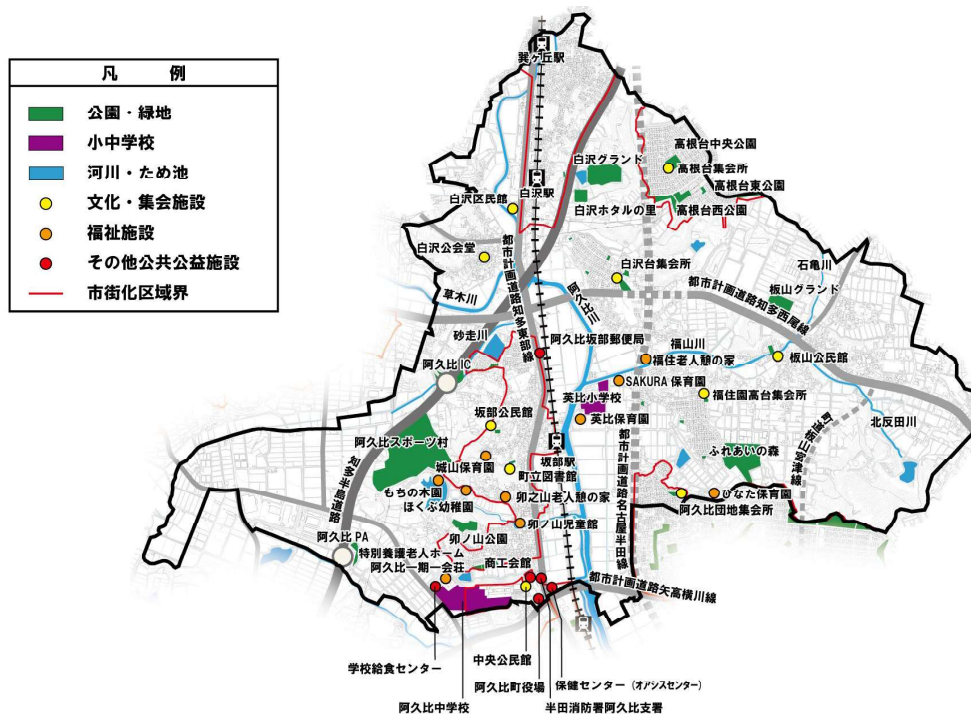
区 分			凡例	市街化区域	
				面積	割合
自然的 土地利用	農地	田		1.42 ha	1.1%
		畑		9.16 ha	7.3%
	山林			8.26 ha	6.6%
	水面			1.84 ha	1.5%
	その他の自然地			3.85 ha	3.1%
都市的 土地利用	住宅用地			56.35 ha	44.9%
	商業用地			5.42 ha	4.3%
	工業用地			0.81 ha	0.6%
	公的・公益用地			9.10 ha	7.2%
	道路用地・ 交通施設用地			21.37 ha	17.0%
	公共空地等			8.08 ha	6.4%
総 計				125.66 ha	100.0%

※「公共空地等」には、公共空地、その他の公的施設用地、
その他の空地、低未利用地が含まれる

④都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況

- ・本地域には、名鉄河和線の坂部駅、白沢駅、巽ヶ丘駅のほか、知多半島道路阿久比インターチェンジや阿久比パーキングエリアが位置しています。
- ・本地域では、都市計画道路が4路線（知多東部線、知多西尾線、名古屋半田線、草木岩滑線）指定されており、名古屋半田線は東浦町との境が未整備となっています。
- ・都市公園は、4カ所（街区公園）1.84haが整備されており、一人あたりの都市公園面積は1.9㎡/人で町平均（2.3㎡/人）より少ない状況となっています。
- ・本地域には、阿久比町役場や阿久比中学校、英比小学校、ほくぶ幼稚園、中央公民館、町立図書館などの公共公益施設が立地するほか、阿久比スポーツ村やふれあいの森などのレクリエーション施設が立地しており、町内外から多くの人に利用されています。

<都市施設・都市機能の状況図>



⑤自然環境・地域資源

- ・阿久比川や福山川沿いに良好な田園風景が広がっています。
- ・東部にはハッチョウトンボなどの貴重な生き物や植物が生息する板山高根湿地があり、ボランティアによる環境保全活動が行われています。

⑥防災

- ・白沢地区、高根台地区、坂部地区の一部が準防火地域に指定されています。
- ・「洪水ハザードマップ」において、阿久比川・十ヶ川流域周辺が浸水想定区域に指定されています。また、「ため池ハザードマップ」において、下ノ池、馬越池、下南池、籐仙坊池・上籐仙坊池（東浦町）などの下流域が被害想定区域に指定されています。
- ・地域防災計画において、阿久比中学校、英比小学校、ふれあいの森などが避難所に指定されているほか、阿久比スポーツ村や白沢グランドなどが避難場所に指定されています。

(2)英比地域の課題

【人口動向】

- 他地域に比べ、最も高齢化が進行している地域であることから、高根台や福住園高台周辺などの高齢化がみられる住宅団地において対策が求められます。

【土地利用動向】

- 既存住宅地や集落地において、良好な住環境の維持・保全が求められます。
- 都市計画道路知多東部線沿道の商業環境や中部工業団地の工業環境の維持・保全が求められます。

【都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況】

- 広域的な交通拠点である名鉄河和線翼ヶ丘駅や知多半島道路阿久比インターチェンジ周辺の機能強化が求められます。
- 都市計画道路の未整備区間の早期整備や地域ニーズを踏まえた身近な公園・緑地の確保、公共公益施設の適正な維持・管理が求められます。
- 広域的なレクリエーション拠点である阿久比スポーツ村、ふれあいの森の防災拠点としての機能強化が求められます。

【自然環境・地域資源】

- 阿久比川などの河川景観を活かしたまちづくりや、板山高根湿地などの特徴的な自然資源の保全が求められます。

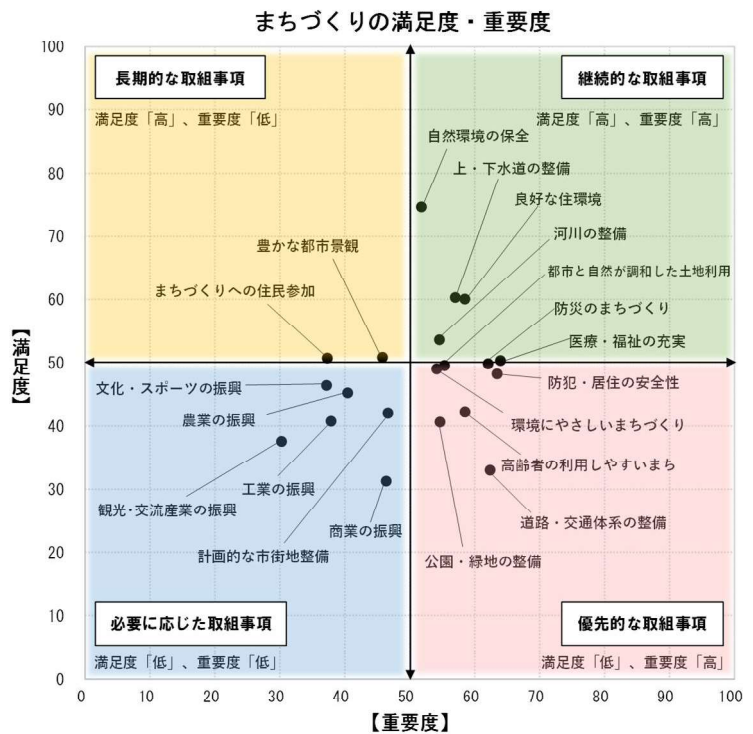
【防災】

- 河川やため池周辺において、自然災害による被害を軽減するための防災対策の推進が求められます。
- 避難所や避難場所に指定されている施設の適切な維持・管理が求められます。

(3) 英比地域の住民意向

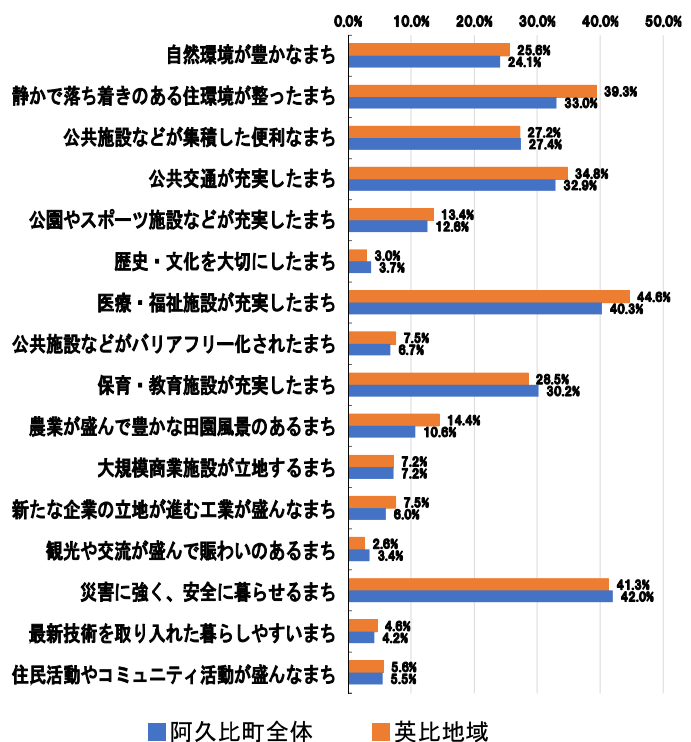
① まちづくりの満足度・重要度

- 満足度が低く重要度が高い取組事項として、「道路・交通体系の整備」や「公園・緑地の整備」、「高齢者の利用しやすいまち」などがあげられており、道路・交通環境の充実や身近な公園・緑地の充実、高齢者が暮らしやすいまちづくりが求められています。



② まちの将来像

- まちの将来像として、「医療・福祉施設が充実したまち」や「災害に強く、安全に暮らせるまち」が高い割合となっており、医療・福祉施設の立地促進や河川の浸水対策などが求められています。
- 町全体と比較すると、「静かで落ち着いた環境が整ったまち」の割合が高く、住宅地の環境改善や質の向上が求められています。



(4) 英比地域のまちづくりの基本方針

① 既存の住宅地や集落地において安心して暮らし続けることができる地域づくり

高根台などの既存住宅地や住宅団地において、良好な居住環境の維持・保全に努めるとともに、子育て世帯や高齢者などが安心して暮らし続けることができる生活環境の形成を図ります。

② 緑のふれあい・レクリエーション拠点の機能強化により多くの人でにぎわう地域づくり

広域的なレクリエーション拠点である阿久比スポーツ村やふれあいの森などの公園機能の維持・充実を図り、多くの人が訪れ、にぎわう地域づくりを進めます。

③ 災害に強く、安全な地域づくり

阿久比川の防災性の向上や阿久比中学校などの避難所や避難場所の適切な維持・保全、機能強化に取り組み、安全な地域環境の形成を図ります。

(5) 英比地域のまちづくりの整備方針

1) 土地利用・市街地整備に関する方針

① 住居系土地利用

- ・高根台などの住宅団地や既存住宅地では、良好な居住環境の維持・保全を図ります。
- ・白沢地区、福住地区、板山地区などの既存集落地では、周囲の自然環境と調和した良好な居住環境の保全を図ります。
- ・白沢地区及び卯坂地区における暫定用途地域については、居住環境の向上を図るため、地域住民などの意向を調整のうえ、今後の土地利用のあり方について検討を進めます。
- ・地域の活性化に資する土地利用を図るため、知多半島道路阿久比インターチェンジ周辺や阿久比町役場周辺などを市街地拡大候補地に位置づけ、実現化に向けた調査・検討を進めます。

② 商業系土地利用

- ・都市計画道路知多東部線や都市計画道路知多西尾線、都市計画道路名古屋半田線の沿道や名鉄河和線の各駅、阿久比町役場の周辺では、営農環境や居住環境との調和に配慮しつつ、生活利便性の高い生活軸として、沿道型の商業・サービス施設の立地誘導を検討します。

③ 農業系土地利用

- ・市街化調整区域の農地では、営農環境の保全・整備を図るとともに、無秩序な宅地化を抑制し、優良農地の保全を図ります。

④ 工業系土地利用

- ・中部工業団地の北側の区域において、営農環境や居住環境との調和と、周辺交通への負担軽減に配慮しながら、新たな産業用地の確保を推進します。

2) 道路・交通の整備方針

- ・地域の生活交通の利便性向上を図るため、新たな南北軸となる都市計画道路名古屋半田線の整備を促進するとともに、都市計画道路知多西尾線と都市計画道路矢高横川線を結ぶ町道板山宮津線の整備検討を進めます。
- ・名鉄河和線巽ヶ丘駅周辺において、駅利用者の利便性向上を図るための環境整備について、検討を進めます。

- ・地域の高齢者など、交通弱者の日常生活を支える移動手段を確保するため、地域住民のニーズに配慮した循環バスの維持・充実を検討します。

3)公園・緑地の整備方針

- ・阿久比スポーツ村は、周辺の緑などを活かしながら、休養、スポーツ、自然とのふれあいなど、様々な余暇活動を楽しめる運動公園としての機能向上を図ります。
- ・ふれあいの森や白沢グラウンドは、広域的なレクリエーション拠点としての機能の維持・充実を図ります。
- ・既設の公園について、公園施設長寿命化計画に基づき、遊具・施設などの適正な維持・管理を図ります。
- ・白沢地区など、都市公園の整備が不足する地域において、地域住民のニーズに配慮した身近な公園・緑地の確保を検討します。

4)河川・下水道の整備方針

- ・阿久比川の河川敷を活かしたサイクリングロードの整備を促進します。
- ・市街化区域内の下水道施設の計画的な維持・更新を図るとともに、市街化調整区域において単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図ります。

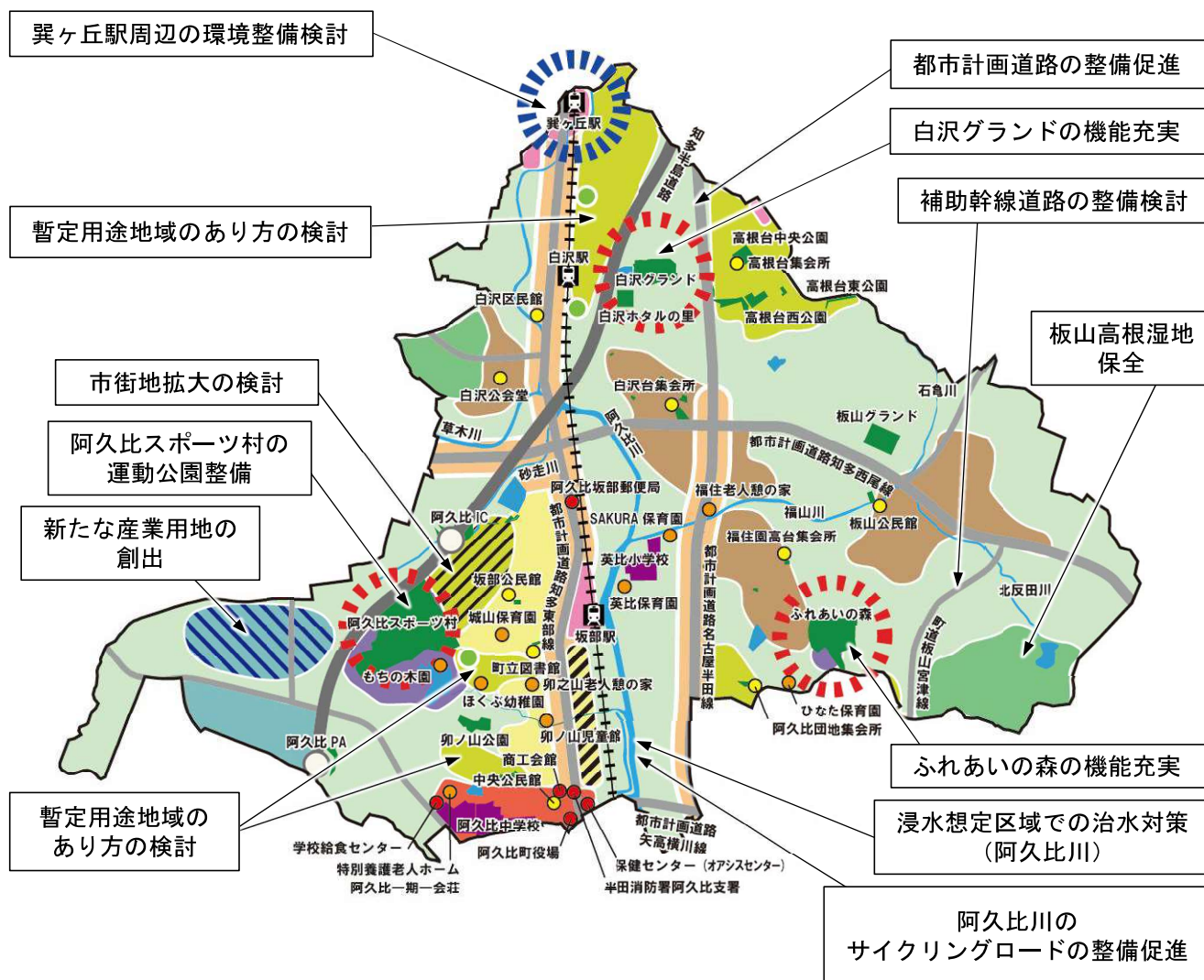
5)自然環境・景観の形成方針

- ・貴重な緑地資源である板山高根湿地について、散策道などの環境整備やボランティアによる継続的な保全活動を推進します。
- ・熊野神社、安楽寺などの社寺林については、地域に根ざした貴重な緑地資源として、地域住民との協働による保全を検討します。
- ・再生可能エネルギー発電施設などの開発は、適正な規制と誘導により抑制し、地域の自然環境や居住環境に配慮した景観の形成に努めます。
- ・ホタルの主要な生息地となっている阿久比川沿いの優良農地は、地域住民との協働のもと継続的な保全を図ります。

6)大規模自然災害に備えた安全安心な生活環境の整備方針

- ・阿久比川周辺の洪水予想エリアにおいて、防災対策の強化や防災措置の指導、農地が有する遊水・保水機能の維持・確保に向けた総合的な対策を図ります。
- ・馬越池、下南池、下ノ池、藤仙坊池・上藤仙坊池（東浦町）などのため池の被害想定区域において、水害の拡大防止に向けた周知を図ります。
- ・準防火地域に指定されている白沢地区、高根台地区、坂部地区の一部では、建物の防火性能の向上を誘導します。
- ・既存集落地内の狭あい道路の改善や空家などの解消によるオープンスペースの確保を図ります。
- ・災害時において、地震災害警戒本部となる阿久比町役場や緊急輸送基地・集積地点となる阿久比中学校、防災拠点となる阿久比スポーツ村やふれあいの森において、防災機能の適切な維持・強化を図ります。
- ・住民の防災意識の高揚を図り、地域主体の防災活動の活性化を促進します。

＜英比地域のまちづくり方針図＞



凡 例	
低層住居ゾーン	観光・交流・レクリエーションゾーン
一般住宅ゾーン	市街地拡大候補地
中心商業・業務ゾーン	産業系候補エリア
近隣型商業ゾーン	小中学校
沿道複合利用ゾーン	公園・緑地
工業ゾーン	河川・ため池
集落地ゾーン	広域的な公園・緑地の拠点
農地ゾーン	交通拠点
自然環境ゾーン	文化・集会施設
	福祉施設
	その他公共公益施設
	新規公園

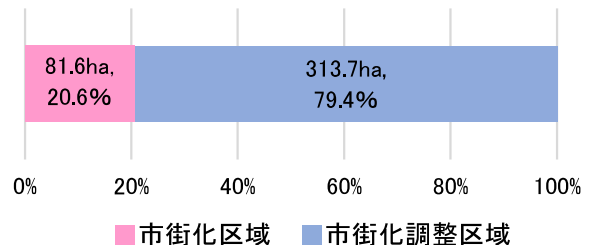
8-4 草木地域のまちづくり構想

(1) 草木地域の現況・特性

① 地域の概況

- ・本地域は、北西部に位置し、知多市、常滑市に隣接しています。
- ・本地域の面積は約 395ha で、そのうち市街化区域は 20.6% (81.6ha) を占めています。
- ・本地域には東西に草木川が流れ、地域の観光資源として花かつみ園があります。

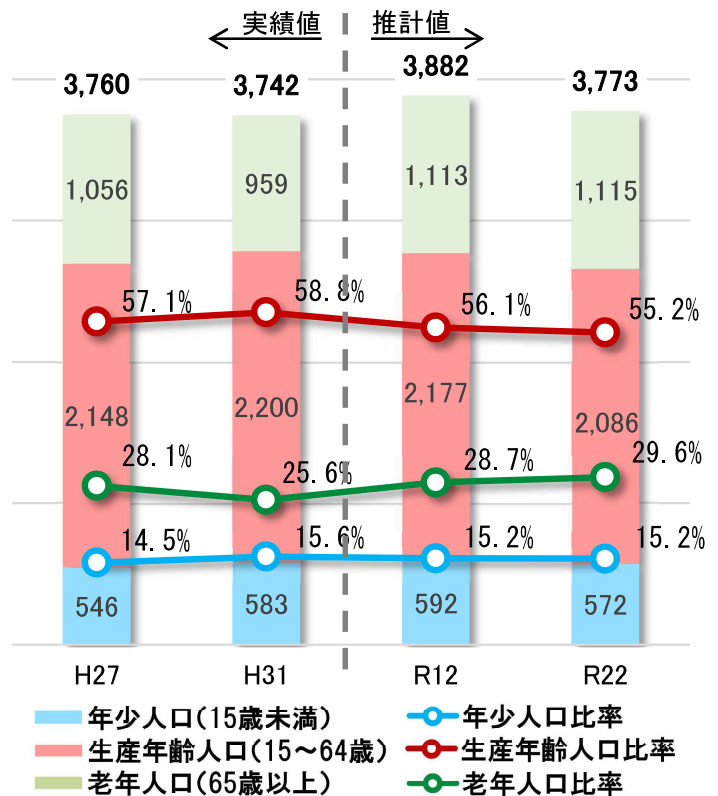
＜区域区分の状況(平成 28 年度)＞



② 人口動向

- ・本地域の平成 27 年 (2015 年) の人口は 3,760 人となっており、町全体の約 14%に該当します。
- ・令和 22 年 (2040) 年までの人口推移を見ると、今後は人口が減少する見込みです。
- ・平成 27 年 (2015 年) の年少人口比率は 14.5%、生産年齢人口比率は 57.1%、老年人口比率は 28.1%となっています。

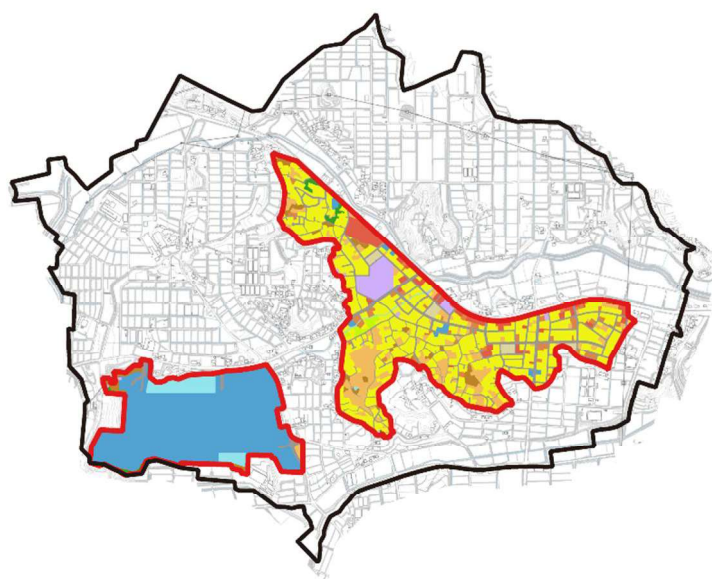
※平成 27 年、令和元年は実績値を採用
 ※令和 12 年、22 年は、平成 27 年度の国勢調査を基にした推計値を採用 (国立社会保障・人口問題研究所)



③ 土地利用の状況

- ・本地域では、草木土地区画整理事業が実施され、都市計画道路知多西尾線に沿って住宅市街地が形成されています。
- ・市街化区域内の土地利用は、住宅用地と工業用地がそれぞれ約 32%となっています。
- ・地域西部の市街化区域内には、草木工業団地があり、工業専用地域に指定されています。
- ・市街化調整区域の大部分に農地が広がっており、東部には草木東部工業団地が位置しています。

＜市街化区域内の土地利用現況(平成 30 年度)＞



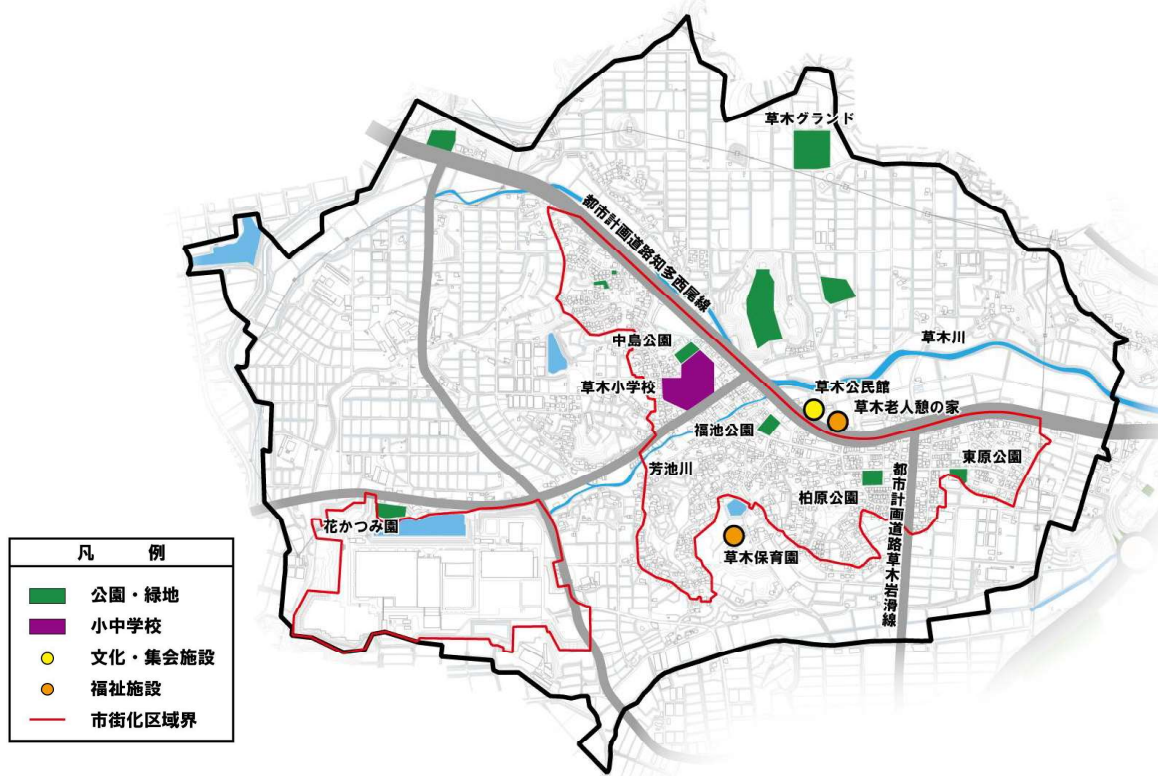
区 分			凡例	市街化区域	
				面積	割合
自然的 土地利用	農地	田		0.31 ha	0.4%
		畑		6.88 ha	8.4%
	山林			0.72 ha	0.9%
	水面			2.73 ha	3.3%
	その他の自然地			2.07 ha	2.5%
	都市的 土地利用	住宅用地			26.23 ha
商業用地			2.83 ha	3.5%	
工業用地			26.26 ha	32.2%	
公的・公益用地			2.23 ha	2.7%	
道路用地・ 交通施設用地			8.86 ha	10.9%	
公共空地等			2.47 ha	3.0%	
総 計				81.59 ha	100.0%

※「公共空地等」には、公共空地、その他の公的施設用地、その他の空地、低未利用地が含まれる

④都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況

- ・本地域では、都市計画道路が2路線（知多西尾線、草木岩滑線）整備されています。
- ・都市公園は、4カ所（街区公園）0.87haが整備されており、一人あたりの都市公園面積は2.3㎡/人で、町平均（2.3㎡/人）と同水準となっています。
- ・本地域には、草木小学校、草木公民館、草木保育園、草木老人憩いの家の公共公益施設が立地しています。

＜都市施設・都市機能の状況図＞



⑤自然環境・地域資源

- ・草木川が地域中央部を流れるほか、草木工業団地に隣接して、花かつみ園があり、ボランティアにより保護活動が行われています。
- ・歴史的資源として、町指定文化財を擁する正盛院があります。

⑥防災

- ・「洪水ハザードマップ」において草木川流域が浸水想定区域に指定されています。また、「ため池ハザードマップ」において、牛作池、平井林池の下流域が被害想定区域に指定されています。
- ・地域防災計画において、草木小学校、草木保育園などが避難所に指定されているほか、草木グランドや中島公園などの街区公園が避難場所に指定されています。

(2)草木地域の課題

【人口動向】

- 地域の高齢化が進行しているため、高齢者が安心して暮らすことのできる生活環境の形成が求められます。

【土地利用動向】

- 既存住宅地や集落地において、良好な住環境の維持・保全が求められます。
- 草木工業団地や草木東部工業団地の工業環境の維持・保全が求められます。

【都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況】

- 地域二一ズを踏まえた身近な公園・緑地の確保や公共公益施設の適正な維持・管理が求められます。

【自然環境・地域資源】

- 草木川の河川景観を活かしたまちづくりや、花かつみ園など特徴ある地域資源の維持・保全が求められます。

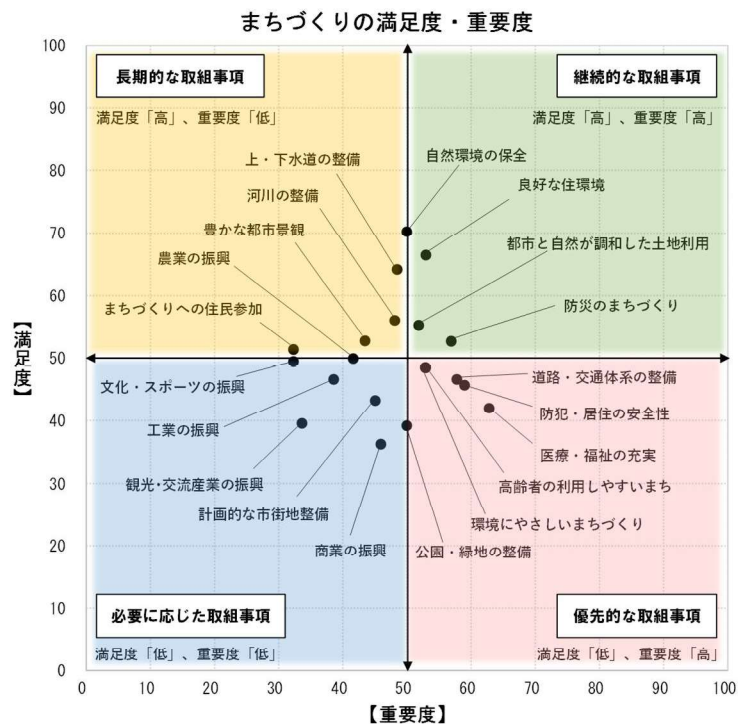
【防災】

- 河川やため池周辺において、自然災害による被害を軽減するための防災対策の推進が求められます。
- 避難所や避難場所に指定されている施設の適切な維持・管理が求められます。

(3)草木地域の住民意向

①まちづくりの満足度・重要度

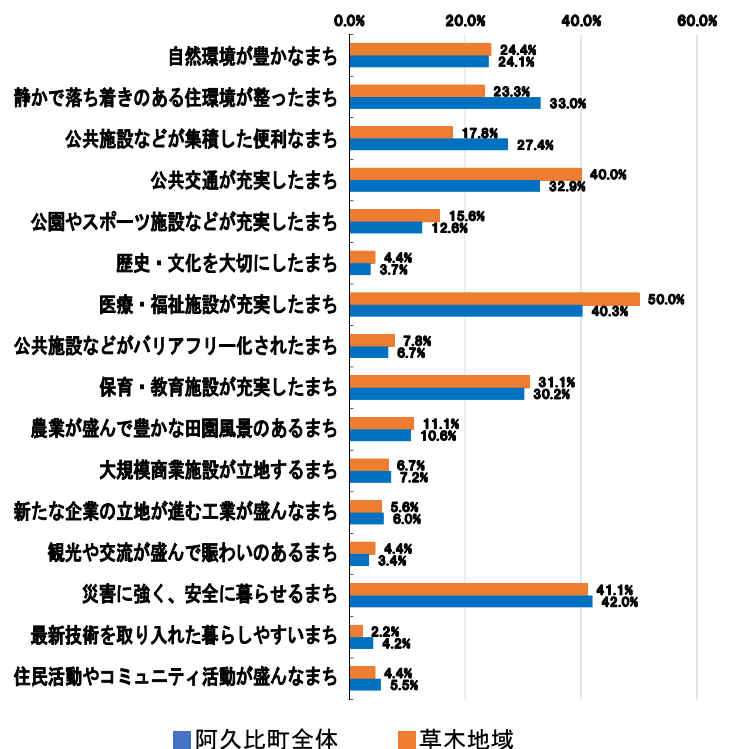
- 満足度が低く重要度が高い取組事項として、「医療・福祉の充実」や「防犯・居住の安全性」などがあげられており、高齢者にやさしいまちづくりや安全安心に暮らせるまちづくりが求められています。



※「満足度」と「重要度」の回答を点数化し、平均得点を偏差値として示したもの。

②まちの将来像

- まちの将来像として、「医療・福祉施設が充実したまち」や「公共交通が充実したまち」が高い割合となっており、医療・福祉施設の立地促進や利用しやすい公共交通環境の整備が求められます。
- 町全体と比較すると、「公園やスポーツ施設などが充実したまち」の割合が高く、公園の整備や機能の充実が求められています。



(4)草木地域のまちづくりの基本方針

①既存の住宅地や集落地において安心して暮らし続けることができる地域づくり

既存住宅地や集落地において、良好な居住環境の維持・保全に努めるとともに、子育て世帯や高齢者などが安心して暮らし続けることができる生活環境の形成を図ります。

②美しい緑・田園環境と調和した地域づくり

草木川や花かつみ園の自然環境を保全し、市街化調整区域に広がる良好な緑・田園環境と調和した地域環境の形成を図ります。

③災害に強く、安全な地域づくり

草木川や居住地の防災性の向上や、草木小学校などの避難所や避難場所の適切な維持・保全、機能の強化に取り組み、安全な地域環境の形成を図ります。

(5)草木地域のまちづくりの整備方針

1)土地利用・市街地整備に関する方針

①住居系土地利用

- ・既存住宅地の良好な居住環境の維持・保全を図るとともに、地区計画制度の活用などによる居住環境の改善について検討を進めます。

②工業系土地利用

- ・草木工業団地及び草木東部工業団地は、周辺の営農環境や居住環境との調和に配慮した工業環境の維持・保全を図ります。
- ・草木工業団地の北側において、周辺の営農環境や居住環境との調和に配慮しつつ、新たな産業用地の確保を推進するとともに、企業等と連携して通勤や業務による交通の分散を図り、周辺道路の交通負荷の低減に努めます。

③農業系土地利用

- ・市街化調整区域に広がる農地は、無秩序な宅地化を抑制し、保全を図ります。

2)道路・交通の整備方針

- ・都市計画道路知多西尾線に接続する県道草木金沢線などの主要道路については、知多半島道路阿久比インターチェンジと知多市を結ぶ交通動線などにも留意しながら、必要に応じて拡幅などの整備を促進します。
- ・地域の高齢者など、交通弱者の日常生活を支える移動手段を確保するため、地域住民のニーズに配慮した循環バスの維持・充実を検討します。

3)公園・緑地の整備方針

- ・既設の公園について、公園施設長寿命化計画に基づき、遊具・施設などの適正な維持・管理を図ります。
- ・花かつみ園については、ボランティアによる維持・管理や交流活動を推進します。

4)河川・下水道の整備方針

- ・地域を東西に流れる草木川などは、近年の豪雨災害を踏まえ、整備計画に基づき、必要な対策を図ります。
- ・草木川について、ボランティアによる草刈りや堤防道路の維持・管理、魚つかみなどの交流活動を推進します。
- ・市街化区域内の下水道施設の計画的な維持・更新を図るとともに、市街化調整区域において単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図ります。

5)自然環境・景観の形成方針

- ・多賀神社及び秋葉神社の社寺林については、良好な植物群落として、地域住民との協働による環境保全を図ります。
- ・再生可能エネルギー発電施設などの開発は、適正な規制と誘導により抑制し、地域の自然環境や居住環境に配慮した景観の形成に努めます。
- ・ホタルの主要な生息地となっている草木川沿いの優良農地は、地域住民との協働のもと継続的な保全を図ります。

6)大規模自然災害に備えた安全安心な生活環境の整備方針

- ・草木川周辺の浸水想定区域において、防災対策の強化や防災措置の指導、農地が有する遊水・保水機能の維持・確保に向けた総合的な対策を図ります。
- ・牛作池などのため池の被害想定区域において、水害の拡大防止に向けた周知を図ります。
- ・既存集落地について、狭あい道路の改善や空家などの解消によるオープンスペースの確保に努めるとともに、避難場所となる公園の防災機能の強化を図ります。
- ・住民の防災意識の高揚を図り、地域主体の防災活動の活性化を促進します。

＜草木地域のまちづくり方針図＞



凡 例	
低層住居ゾーン	産業系候補エリア
一般住宅ゾーン	小中学校
沿道複合利用ゾーン	公園・緑地
専用工業ゾーン	河川・ため池
工業ゾーン	文化・集会施設
農地ゾーン	福祉施設

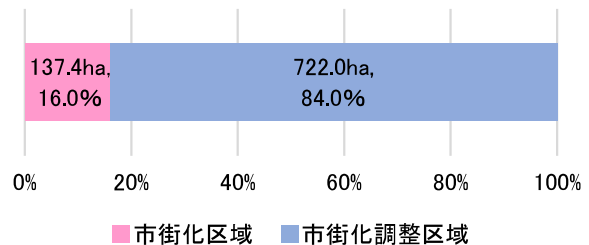
8-5 南部地域のまちづくり構想

(1) 南部地域の現況・特性

① 地域の概況

- ・本地域は、南西部に位置し、常滑市、半田市に隣接しています。
- ・本地域の面積は約 859ha で、そのうち市街化区域は 16.0% (137.4ha) を占めています。
- ・本地域には、名鉄河和線阿久比駅や植大駅が位置しています。

＜区域区分の状況(平成 28 年度)＞



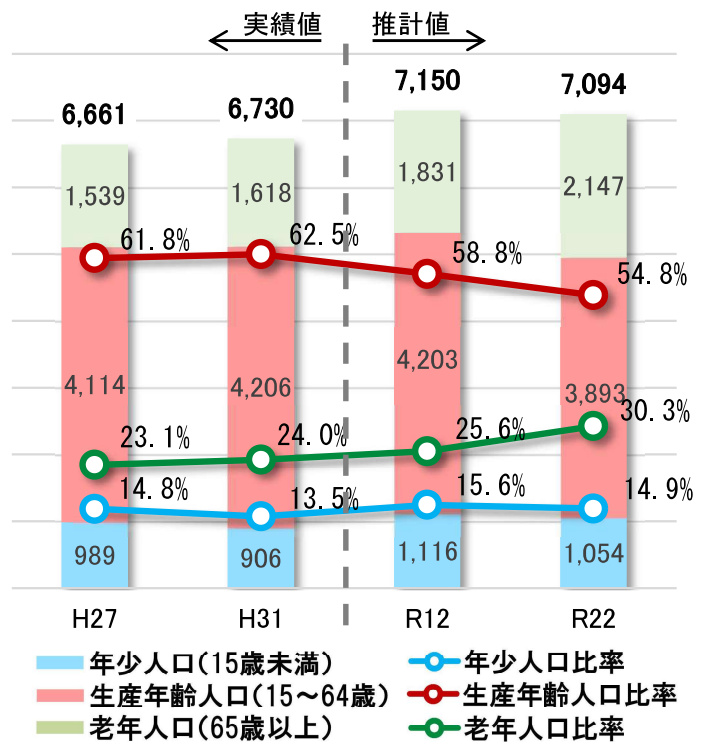
② 人口動向

- ・本地域の平成 27 年 (2015 年) の人口は 6,661 人となっており、町全体の約 24%に該当します。
- ・令和 22 年 (2040 年) までの人口推移を見ると、今後は人口が減少する見込みです。
- ・平成 27 年 (2015 年) の年少人口比率は 14.8%、生産年齢人口比率は 61.8%、老年人口比率は 23.1%となっており、町内で最も生産年齢人口比率が高い地域となっています。

※平成 27 年、令和元年は実績値を採用

※令和 12 年、22 年は、平成 27 年度の国勢調査を基にした推計値を採用 (国立社会保障・人口問題研究所)

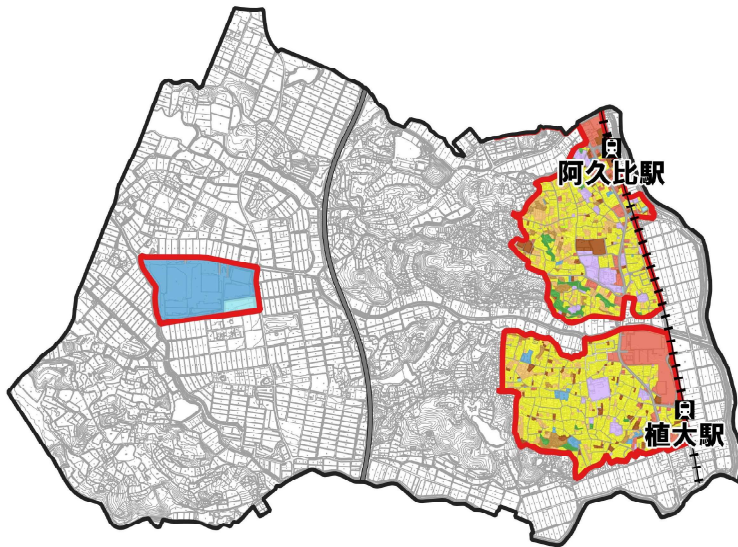
＜人口・世帯数の推移＞



③ 土地利用の状況

- ・本地域では、阿久比駅前土地区画整理事業が実施され、名鉄河和線や都市計画道路知多東部線に沿って市街地が形成されています。
- ・市街化区域内には、住宅地のほか、大規模商業施設や南部工業団地が立地しており、住宅用地が約 39%、商業用地が約 10%、工業用地が約 15%を占めています。
- ・植大地区では、住工の用途が混在した土地利用がみられています。
- ・市街化調整区域には、優良農地が広がっています。
- ・阿久比・矢高地区では、都市計画道路の整備状況により産業系市街地の開発を検討しています。

<市街化区域内の土地利用現況(平成30年度)>



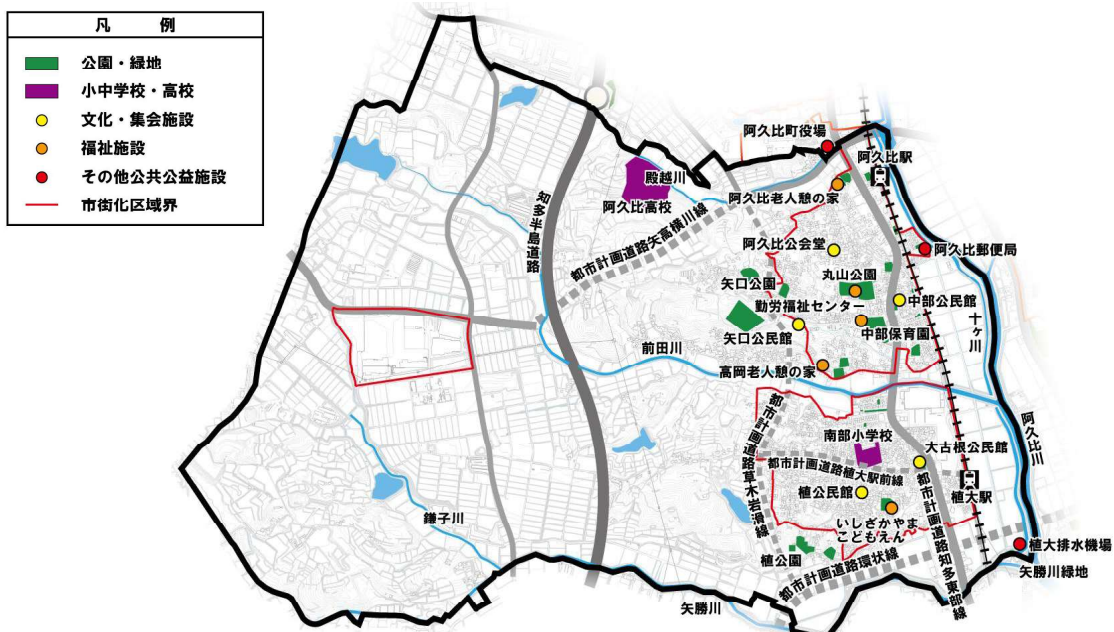
区 分			凡例	市街化区域	
				面積	割合
自然的 土地利用	農地	田		0.10 ha	0.1%
		畑		10.20 ha	7.4%
	山林			3.07 ha	2.2%
	水面			2.07 ha	1.5%
	その他の自然地			3.76 ha	2.7%
	都市的 土地利用	住宅用地			52.84 ha
商業用地			13.85 ha	10.1%	
工業用地			20.13 ha	14.7%	
公的・公益用地			6.71 ha	4.9%	
道路用地・ 交通施設用地			18.51 ha	13.5%	
公共空地等			6.16 ha	4.5%	
総 計				137.40 ha	100.0%

※「公共空地等」には、公共空地、その他の公的施設用地、その他の空地、低未利用地が含まれる

④ 都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況

- ・本地域には、名鉄河和線阿久比駅、植大駅が位置しています。
- ・北部の阿久比パーキングエリア周辺では、上りパーキングエリアの新設と合わせた新たな土地利用が計画されています。
- ・本地域では、都市計画道路が5路線（知多東部線、環状線、矢高横川線、植大駅前線、草木岩滑線）が指定されており、そのほとんどが未整備となっています。
- ・都市公園は、近隣公園を含めて3カ所 1.93ha が整備されており、一人あたりの都市公園面積は 2.9 m²/人で、町平均（2.3 m²/人）よりも高い水準となっています。
- ・本地域には、県立阿久比高等学校、南部小学校、阿久比公会堂、勤労福祉センターのほか、公民館、保育園、老人憩の家などの公共公益施設が立地しています。

<都市施設・都市機能の状況図>



⑤自然環境・地域資源

- ・阿久比川などの河川沿岸や地域西部に優良な田園風景が広がっているほか、地域南部に権現山などの森林がまとまって分布しています。
- ・歴史的資源として、国登録有形文化財を擁する蓮慶寺があるほか、町指定有形民俗文化財である山車が大古根地区にあり、山車の曳き回しなどが行われています。
- ・矢勝川左岸堤防に広がる彼岸花は本町の観光資源であり、秋祭りには多くの観光客が訪れています。

⑥防災

- ・阿久比地区、棕岡地区、植大地区の一部を準防火地域に指定しています。
- ・「洪水ハザードマップ」において、阿久比川、前田川、矢勝川流域が浸水想定区域に指定されています。
- ・矢高地区の丘陵地には、土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所、山腹崩壊危険地区に指定されています。
- ・地域防災計画において、南部小学校、勤労福祉センターなどが避難所に指定されているほか、丸山公園などが避難場所に指定されています。

(2)南部地域の課題

【人口動向】

- 他地区に比べ、生産年齢人口比率が高い割合を占めることから、今後も将来にわたり、子育て世帯をはじめとする若い世代が暮らしやすい環境づくりが求められます。

【土地利用動向】

- 既存住宅地や集落地の良好な住環境の維持・保全が求められます。
- 都市計画道路知多東部線沿道の商業環境の維持・保全が求められます。
- 阿久比・矢高地区において、都市計画道路の整備状況と合わせた産業系市街地の開発促進が求められます。

【都市施設の整備状況／公共公益施設の立地状況】

- 都市計画道路の未整備区間の早期整備や地域ニーズを踏まえた身近な公園・緑地の確保、公共公益施設の適正な維持・管理が求められます。
- 名鉄河和線阿久比駅周辺や阿久比パーキングエリア周辺などにおいて、交通機能の強化や商業・業務機能の充実が求められます。

【自然環境・地域資源】

- 阿久比川の河川景観を活かしたまちづくりや、箭比神社など地域の特色ある歴史・文化の保全・継承が求められます。
- 権現山や矢勝川などの地域資源を活かした観光の魅力づくりが求められます。

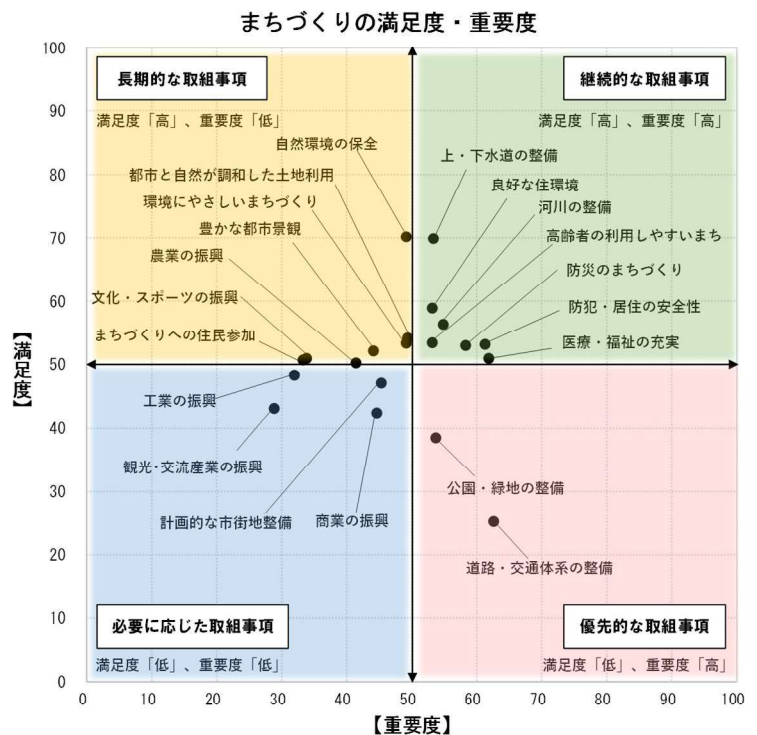
【防災】

- 河川周辺や矢高地区の丘陵地において、自然災害による被害を軽減するための防災対策の推進が求められます。
- 避難所や避難場所に指定されている施設の適切な維持・管理が求められます。

(3)南部地域の住民意向

①まちづくりの満足度・重要度

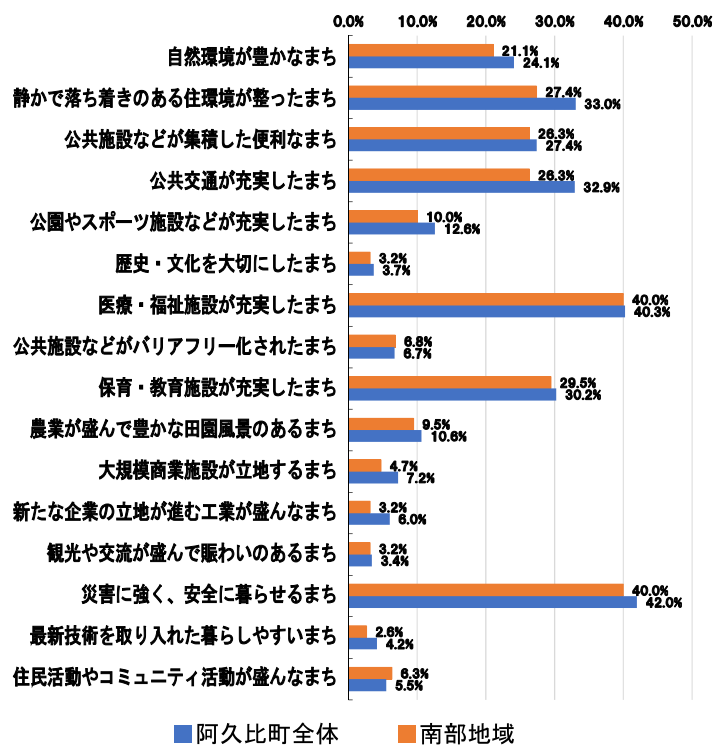
- 満足度が低く重要度が高い取組事項として、「道路・交通体系の整備」や「公園・緑地の整備」があげられており、道路・交通環境や身近な公園・緑地の充実が求められています。



※「満足度」と「重要度」の回答を点数化し、平均得点を偏差値として示したもの。

②まちの将来像

- まちの将来像として、「医療・福祉施設が充実したまち」や「災害に強く、安全に暮らせるまち」が高い割合となっており、医療・福祉施設の立地促進や河川の浸水対策、丘陵地の急傾斜地崩壊対策などが求められます。
- 町全体と比較すると、「住民活動やコミュニティ活動が盛んなまち」の割合が高く、地域コミュニティの充実が求められています。



(4)南部地域のまちづくりの基本方針

①既存の住宅地や集落地において安心して暮らし続けることができる地域づくり

名鉄河和線阿久比駅前や植大駅前をはじめとする既存住宅地において、良好な居住環境の維持・保全に努めるとともに、地域住民や来訪者が快適に利用できる生活環境の形成を図ります。

②既存の地域資源の活用や新たな産業拠点の創出による活力ある地域づくり

権現山や矢勝川などの観光資源の魅力向上に努めるとともに、阿久比パーキングエリア周辺への新たな交流拠点の形成や阿久比・矢高地区への工業用地の整備を促進し、多くの人が交流する活力ある地域環境の形成を図ります。

③災害に強く、安全な地域づくり

阿久比川・前田川や丘陵地の急斜面に近接する集落地の防災性を向上し、安全な地域環境の形成を図ります。

(5)南部地域のまちづくりの整備方針

1)土地利用・市街地整備に関する方針

①住居系土地利用

- ・名鉄河和線阿久比駅周辺では、商業・業務などの生活サービス機能の維持・集積を図るとともに、中高層住宅などを含めた土地の高度利用や有効利用を検討します。
- ・矢口地区、高岡地区などの集落地では、周囲の自然環境と調和した居住環境の保全を図ります。
- ・名鉄河和線植大駅周辺では、駅前の交通環境の整備・改善を図ります。
- ・地域住民の生活利便性を考慮した土地利用を図るため、都市計画道路環状線と都市計画道路知多東部線の交差点周辺を市街地拡大候補地に位置づけ、実現化に向けた調査・検討を進めます。

②商業系土地利用

- ・地域住民の生活利便性を考慮した土地利用を図るため、都市計画道路知多東部線及び環状線沿道を市街地拡大候補地に位置付け、実現化に向けた調査・検討を進めます。
- ・阿久比町役場周辺及び名鉄河和線阿久比駅周辺では、本町の中心的な商業・業務拠点として、医療、福祉、教育、商業・業務などの生活サービス機能の維持・集積を図るため、商業系の市街地拡大を推進します。また、良好な居住機能の付加についても検討します。

③工業系土地利用

- ・南部工業団地は、周辺の営農環境・田園風景と調和した工業用地として環境の維持・保全を図ります。
- ・阿久比・矢高地区では、都市計画道路矢高横川線沿道を中心に市街地拡大候補地を位置づけ、都市計画道路の整備状況に合わせた工業用地の整備検討を進めます。
- ・植大地区の既存集落地では、土地利用転換の状況を踏まえ、工業系用途から住居系用途への用途地域の見直しについて、検討を進めます。

④農業系土地利用

- ・市街化調整区域の農地では、土地改良事業などにより営農環境の保全・整備を進めるとともに、無秩序な宅地化を抑制し、優良農地の保全を図ります。

2)道路・交通の整備方針

- ・環状線、矢高横川線などの都市計画道路の早期整備の実現に向けた検討を進めます。

- ・名鉄河和線阿久比駅を中心とした交通ネットワークの強化を図ります。
- ・地域の高齢者など、交通弱者の日常生活を支える移動手段を確保するため、地域住民のニーズに配慮した循環バスの維持・充実を検討します。

3)公園・緑地の整備方針

- ・既設の公園について、公園施設長寿命化計画に基づき、遊具・施設などの適正な維持・管理を図ります。
- ・都市公園の整備が不足する地域において、地域住民のニーズに配慮した身近な公園・緑地の確保を検討します。
- ・阿久比パーキングエリア周辺において、広域的な緑のふれあい交流拠点（総合公園）の整備を検討します。

4)河川・下水道の整備方針

- ・阿久比川や矢勝川の河川敷を活かしたサイクリングロードの整備を促進します。
- ・前田川などの河川改修や、市街化調整区域に広がる農地における農作物のたん水被害防止を未然に防ぐため、たん水防除事業を促進します。
- ・市街化区域内の下水道施設の計画的な維持・更新を図るとともに、市街化調整区域において単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図ります。

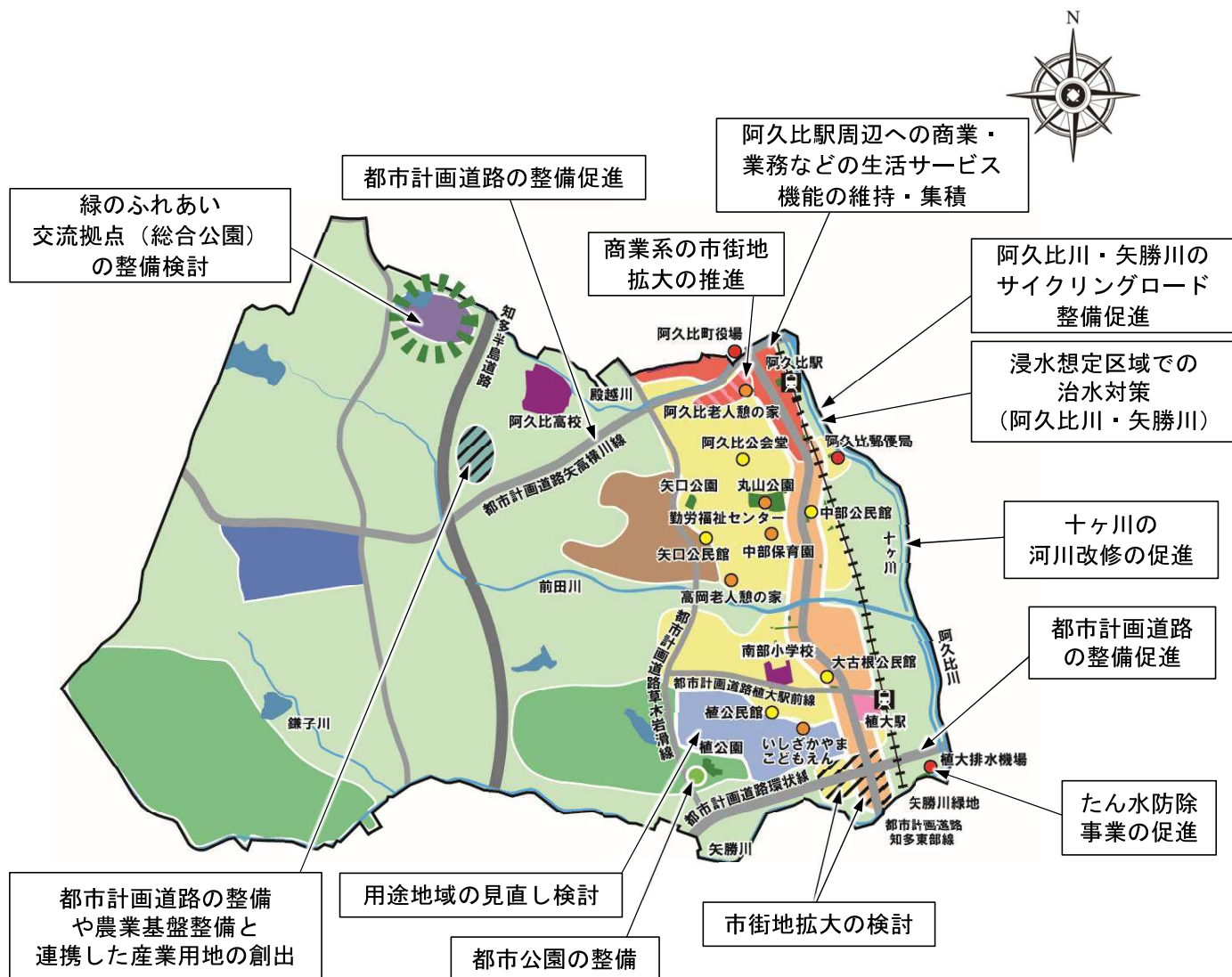
5)自然環境・景観の形成方針

- ・市街地近郊の貴重な緑地資源である箭比神社、五郷社などの社寺林は、地域住民との協働による保全を検討します。
- ・権現山一帯では、西狐谷池や矢勝川などが舞台となったといわれる童話「ごんぎつね」をモチーフとした環境整備など、観光・交流の促進に向けた取り組みを地域住民とともに検討します。
- ・矢勝川では、地域が主体となった環境美化活動を促進し、観光資源としての環境の維持・保全を図ります。
- ・再生可能エネルギー発電施設などの開発は、適正な規制と誘導により抑制し、自然環境や地域の居住環境に配慮した景観の形成に努めます。
- ・ホタルの主要な生息地となっている阿久比川、前田川及び矢勝川沿いの優良農地は、地域住民との協働のもと継続的な保全を図ります。

6)大規模自然災害に備えた安全安心な生活環境の整備方針

- ・阿久比川や十ヶ川などの改修を促進するとともに、洪水ハザードマップに基づく浸水想定区域において、植大排水機場の新設、高潮対策として十ヶ川遊水地の整備など、防災対策の強化や防災措置の指導、農地が有する遊水・保水機能の維持・確保に向けた総合的な対策を図ります。
- ・急傾斜地に近接している矢高地区をはじめとする既存集落地は、危険度に応じて急傾斜地崩壊対策事業を促進します。
- ・浸水想定区域などの災害リスクについて、ハザードマップなどを通じて、広く住民に周知・啓発します。大規模地震などで被害を受けやすい、大規模盛土造成地については個別計画により、さらにスクリーニングし、宅地防災対策を検討します。
- ・既存集落地内の狭あい道路の改善による安全な避難路の確保や空家などの解消によるオープンスペースの確保に努めるとともに、避難場所となる公園の防災機能の強化を図ります。
- ・準防火地域に指定されている阿久比地区、椋岡地区、植大地区の一部では、建物の防火性能の向上を誘導します。
- ・住民の防災意識の高揚を図り、地域主体の防災活動の活性化を促進します。

<南部地域のまちづくり方針図>



凡 例	
一般住宅ゾーン	観光・交流・レクリエーションゾーン
中心商業・業務ゾーン	市街地拡大候補地
近隣型商業ゾーン	商業系候補エリア
沿道複合利用ゾーン	小中学校・高校
専用工業ゾーン	公園・緑地
工業ゾーン	河川・ため池
住工共存ゾーン	緑のふれあい交流拠点
集落地ゾーン	文化・集会施設
農地ゾーン	福祉施設
自然環境ゾーン	その他公共公益施設
	新規公園